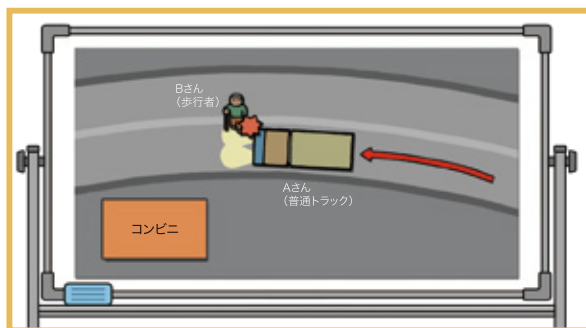


事故事例をもとに安全運転のポイントを紹介。社内での安全運転活動にお役にたください。

事故に
至るまでの
状況

Aさん(男性、普通トラック、50代)は19時近くの暗い時間帯に、往復2車線の国道を法定速度の60Km/hで走行していました。道路はAさんから見て緩やかな左カーブで見通しは良いものの、左側路外にあるコンビニエンスストアの看板照明が目立つ程度の、道路照明がない暗い場所でした。対向車はなかったのですが、習慣でロービームのまま走行していたところ、横断歩道のない道路を右から左に横断してきたBさん(男性、歩行者、80代)を確認。急ブレーキをかけたのですが間に合わずに衝突してしまいました。

事故現場
略図



事故の原因

この事故は、Aさんの横断歩行者に対する意識が薄かったため、対向車がないのにロービームのまま進行し、Bさんの認知が遅れてしまったことが原因と考えられます。また、仕事による心身の疲労も多少あり、集中力を欠いた状態で運転していたことも要因

のひとつと考えられます。一方Bさん側の要因は、横断開始前や横断途中で左右の安全確認を怠ったこと、目立たない服装で反射材などを身につけていなかったため、見落とされたことがあげられます。

安全運転に向けて指導のポイント

夜間の歩行中死亡事故は、日が暮れた「17時～20時」の間で多発しています。また歩行者(65歳以上)が、夜間や横断歩道以外を横断していた際の死亡事故は、相手の約9割が4輪車、そのうち約7割が「4輪車からみて右から横断して来た歩行者との衝突」でした。また、その事故原因の約9割が「ドライバーの発見

の遅れ」によるものです※。暗い道では、歩行者の早期発見が重要になります。ハイビームで歩行者の事前の発見に努めましょう。またロービームのまま走行するのであれば、下向き照射距離内で安全に停止できる速度に減速して走行しましょう。

※(公財)交通事故総合分析センター「イタルデザインフォーメーション87号」

今月の安全メモ!

- ・暗い道では、ハイビームで歩行者の早期発見に努めよう!
- ・切り替えできない場合は、照射距離内で安全に停止できる速度まで減速して走行しよう!